

栃木県中学校長会報

中学校教育の 課題解決に向けて



栃木県中学校長会長
宇都宮市立泉が丘中学校
校長 千本文雄

ここ数年来の大きな教育改革のうねりの中で、平成八年度を迎えたわけですが、

21世紀を担う世代の育成に当たる私ども校長は、自ら学ぶ意欲を持ち、社会の変化に主体的に対応できる心豊かでたくましい日本人を育てる中学校教育をしっかりと推進していかなければなりません。

その推進に当たって、中学校教育の当面する課題の解決に向けていくつか申し上げます。

まず第一は、新しい教育観に基づいた指導の改善についてであります。「新しい学力」の中心をなすものは、いうまでもなく意欲や態度、思考力、判断力といった心の働きによる能力や資質であり、生徒の個性が重要となるわけであります。

第二に、選択履修の幅の拡大についてであります。生徒の個性を生かすという観点に立てば、できるだけ多くの選択教科を履修させ、能力や適性の発見、伸長に資するという大事なことであり、教科内に多様なコースを設けることも含めて、選択履修幅の拡大ということに多くの工夫を凝らすことが肝要であると思えます。

第三は、いじめ根絶に向けての取り組みについてであります。いじめは絶対に許されないというすべての教師の認識のもとに、我々校長がリーダーシップを発揮し、全校をあげて指導体制を確立することが基本となります。そのためには一人一人の教師がカウンセリング マインドをもって教育相談的な態度や姿勢で生徒に接することが大切であります。

いじめについては、早期発見とその対応に併せて、生徒の生活体験、人間関係を豊かなものとし、自主性・主体性を育成するなど積極的な視点に立った指導の充実を図っていくことが求められており

ます。

そのためには、生徒の一人一人の個性を尊重し、生徒が存在感を持ちながら、満ち足りた学校生活を送れるようにするため、幅広い生活体験を積み重ねたり、社会性の涵養や他を思いやれる豊かな情操を培う活動を学校教育において、積極的に推進していくことを提案します。

第四は、「いきいき栃木っ子3あい運動」の推進についてであります。

3あい運動につきましては、ご承知のように昭和62年にスタートをし、第1期から第3期まで、「普及、啓発」「実践、定着化」「日常化、地域化」の各期を9年間にわたって実践してきたわけですが、平成8年度からは県の重点事業として「3あい運動」を学校、家庭、地域社会において「深化、拡充」させることにより、豊かな心を持ち、たくましく生きる生徒の育成をめざして第2ステージを迎えております。

今後の推進に当たりましては「3あい運動」そのものが「学校教育の改善、充実」、「家庭教育の充実」「地域活動の活性化」に直接的につながるような展開が大切かと思えます。

特に各学校の実践では、生徒一人一人を大切にす教育、いきいきとした学習の展開、一人一人のよさを認め、励ましあう仲間づくりを踏まえ、新しい学力観とのかかわりで、日々の授業の中において実践することが大切かと思えます。

第5は、第15期中央教育審議会が平成7年4月に文部大臣から「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について」諮問を受け、平成8年7月に第1部 今後における教育の在り方、第2部 学校・家庭・地域社会の発展等社会の変化に対応する教育の在り方、第3部 国際化、情報化、科学技術の発展等社会の変化に対応する教育の在り方の3部構成で、第一次答申がなされております。

今後私たちは、その答申内容を十分に検討し、新しい世紀の教育の創造を目指して研究実践を積み重ねていかなければならないと考えます。

このほか、現在の中学校教育に課題は数多くありますが、私どもは一体となり、校長として使命感に徹し、研鑽を積み、学校経営に創意をこらして本県中学校教育の充実発展のために努力をしていきたいと考えます。「総会あいさつ」より。

「学校・家庭・地域社会の役割」に思う



栃木県中学校長会副会長
宇都宮市立一条中学校
校長 塩澤陽一

第15期中教審「審議のまとめ」に示された検討事項の大きな柱の一つに「学校・家庭・地域社会

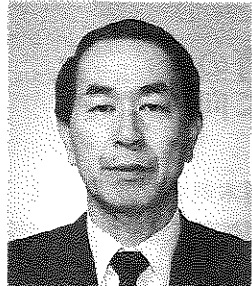
の役割と連携の在り方」があげられている。

戦後の新しい制度に基づき、改善を加えながら進められてきたはずの学校教育が、厳しく問われ出したのは、何と言っても全国的に伝播し吹き荒れた“校内暴力”の時である。それ以来、教育の現場に向けられる矛先は極めて鋭く激しくなった。我々教師は、在るべき教育の方向を探って、必死に努力を重ねてきた。一人一人の子どもに目を向けながら、存在感を持たせ主体性を育てるなど、日夜を分かたず工夫を凝らし、その解決に努めてきた。にもかかわらず今、いじめやその他の非行そして登校拒否等様々な問題が沸出してきて後を絶たない。どうやら子ども達の、社会性の未熟さ、倫理観の欠如、人間関係の希薄さなど、それらの進み具合の方が我々の努力を上回ってしまっているようだ。何故だろう。

先頃、ある地域での懇談会で出た話、“今の世の中、隣に住んでいても行き来がない、あいさつもまばら、場合によっては隣の家族の顔も知らない。そんな中で子どもの心に何が育つ？”まったくその通りである。そんな環境の中で、社会性や倫理観が育つわけもないし、好ましい人間関係も構築されない。

今こそ、家庭の教育力、地域社会の教育力を高めるために、あらゆる手段を駆使して、その実現に努めなければならない時と考える。教育百年の大計を考えるならば、マスコミも教育評論家の先生方も、学校教育の在り方と併せて、家庭や地域社会の教育力にも焦点を当ててその改革・改善のきっかけを作って欲しい。そのための運動を起こして欲しいものだ。もちろん学校も、“3あい運動”の深化・拡充を旗印に、学校、家庭、地域社会それぞれの役割を追求し、一体化していくために大いにイニシアチブをとらねばなるまい。

教師の喜び



栃木県中学校長会副会長
氏家町立氏家中学校
校長 豊田 實

期待を胸に抱き教職の道に就いてから、早38年間が過ぎようとしています。この間、己れの未

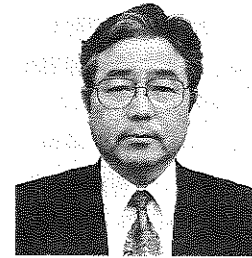
熟さの故に思い悩むことも数々ありましたが、その反面、教師ならではの喜びや幸せを感じたことも杯挙に暇がありません。映画のタイトルになぞらえてみれば、「喜びも悲しみも生徒ありての30有余年」であったと言えましょうか。生徒にまつわる様々な思い出が脳裏をよぎってまいります。

いつも思うことですが、教職のすばらしさは、何と言っても人間を対象としているところにあります。物はどんなによいものでも、日を追って製品の価値を失っていきませんが、生徒は間違いなく成長の足跡を刻んでいます。時には、人の道を踏み外しそうになる子もいますが、彼らとて人の子、人間の心は失っていない筈です。特にそれを感じるのは、卒業後の同窓会や結婚式に招かれた時の、精一杯今を生きる彼らの姿です。

在学中いろいろと問題を起こした生徒が、結婚式当日、涙ながらに当時の非を悔い、苦勞をかけた母親に同じ思いをさせないように頑張るとの思いを語ってくれたことがありました。また、成人式後の同窓会で、やはり問題の多かった子が、酒を飲むうちに勇を奮ったように私の前にきて、ただ一言「先生、あの頃は迷惑ばかりかけてすみません。」と言ったきり、後は涙、涙のこともありました。「教師をやってよかった。」そんな思いが胸いっぱいひろがり、新たな意欲を燃やすきっかけにもなった嬉しい出来事でした。

生徒によりよい変容をみる時ほど、教師のこれにすぐる喜びはありません。それを願って努力はしてきたつもりでも、思うに任せぬことも多々あったことを恥ずかしく思います。それでもなお、生徒たちとの幾多の出会いの中で、彼らから与えられた喜びや幸せがあればこそ、今の自分があることをしみじみと感じてなりません。あの顔、この顔が懐しく目に浮かんでくる今日この頃です。

退任にあたって



前栃木県中学校長会長
前宇都宮市立旭中学校長
金子隆郎

このたびの会長退任にあたり、一言御礼の御挨拶を申し上げます。

平成7年度会長在任中は、会員の皆様に変えお世話になりました。不行届の多いことに対しましても、温かい御理解と御協力をいただきましたことを心から感謝しております。ここに改めて御礼申し上げます。ありがとうございました。

平成7年度は、全日本中学校長会の研究主題も「学ぶ意欲と主体的に生きる力を育てる中学校教育」と改められた初年度の研究が進められました。

本県においても、いわゆる新しい学力観に基づく教育実践が本格化し、各学校での具体的で創意に満ちた教育活動が継続的に展開されました。

いっぽう、いじめや不登校などへの緊急かつ適切な対応が昨年度にもまして求められました。また、学校週5日制の進行に伴う教育課程など学校運営全般にわたる見直しも進められました。

さらには保護者や地域の関係者、関係機関・団体の方々との連携強化など、どの場面においても校長としてのリーダーシップの発揮がますます期待されているという感を強くしております。

私は、校長先生がたが、そのような日常の取組みの際に、研究大会を始めとする校長会の自主的研究活動の成果や、各専門部会としての活動実績が真の支えになるような校長会を目指したいと考えてきたつもりであります。

これからの校長は、教職員のだれよりも鋭い感性や向上心、優れた判断力などリーダーとしての資質能力が従来にもまして必要となると思います。

会員の皆様には、健康に留意されて、お力を十分に発揮されますようお祈りするとともに、まもなく50周年を迎えられる本県中学校長会の今後の充実発展をご祈念申し上げる次第であります。

平成8年度 各専門部活動計画

調査部

部長 高橋 雅 義 (宇・星が丘中)

1 役員の出選と事業計画の作成

平成8年6月3日、栃木県教育会館において調査部会を開催し、本年度の組織及び事業計画を協議し、次のように決定した。

(1) 役員

部長 高橋 雅 義 (宇・星が丘中)
副部長 野澤 充 (河・明治中)
" 宗 像 景 満 (下・南犬飼中)

(2) 事業計画

- ア 全日中教育情報部との共同調査である「中学校教育に関する調査」の実施。
- イ 県中学校長会及び各専門部活動に必要な調査と資料の提供。
- ウ 他都道府県中学校長会及び各教育関係団体との連携・協力並びに資料・情報の交換
- エ 各種調査結果及び資料収集、情報の提供配布

2 「中学校教育に関する調査」について 本調査は、全日本中学校長会教育情報部より共同調

査を依頼されたもので、6月中に実施した。調査にあたっては、県教委義務教育課及び高校教育課等に資料の提供をお願いし、ご協力をいただきました。

なお、調査項目中、「一人当たりの担当教科数」や「教育課程の編成状況」等については、県内全中学校の悉皆調査を要するため、本調査部員を通じて各中学校にご協力をお願いいたしました。集計にあたっては、各地区の調査部の校長先生方にお骨折をいただきました。御協力に厚く感謝申し上げます。その調査の結果の一部を次の表で紹介いたします。

比較項目	平6・5・1	平7・5・1	平8・5・1	
給 料	初任給	191,400	193,900	196,000
	勤務10年	278,600	283,600	298,400
	勤務20年	369,900	376,100	396,600
勤務36年(校長)	494,900	501,000	503,900	
旅費一人当たり(年間)	80,900	80,900	80,900	
校長退職年令	60歳	60歳	60歳	
生徒数	79,174	77,001	75,910	
教職員(校長、教頭、教諭、養護教諭等)	4,304	4,241	4,353	

☒ 研修部

部長 伊澤哲夫(宇・晃陽中)

1 平成8年度組織

部長 伊澤哲夫(宇・晃陽中)

副部長 渡邊泰宏(那・那須中)

〃 御子貝久志(上・北押原中)

部員 10名(各地区1名)

2 平成8年度研究活動計画

(1) 研究テーマ

ア 主題 学ぶ意欲と主体的に生きる力を育てる中学校教育

イ 副主題 生徒一人一人を生かした教育活動の推進

(2) 主な研究活動

ア 第18回栃木県中学校長会研究大会の実施

- ・期日 平成8年9月10日(火)
- ・会場 栃木県子ども総合科学館
- ・内容 全体会(研究発表)・分科会・講演会

○研究発表内容

- ① 生徒のよさや可能性を生かす学習指導の推進と充実
一意欲をもって自己表現できる支援の工夫—(芳賀地区)
- ② 学ぶ意欲と主体性と生きる力を育てる中学校教育
—学校週5日制の推進と新しい学校運営—(那須地区)
- ③ 新しい学力観に立った教育課程の編成と指導法の工夫
—選択履修について—(足利地区)

○講演会

- ・演題 これからの学校教育
～中教審の審議を通して～
- ・講師 前全日本中学校長会長

中 進士

イ 研究集録の作成

- ① 第18回研究大会内容の編集収録
- ② 各地区実践研究の編集収録

☒ 編集部

部長 琴寄忠男(栃・皆川中)

平成8年6月3日(月)、県教育会館において編集部会を開き協議した結果、次のように役員を決定し事業計画を構想いたしました。

1 平成8年度役員

部長 琴寄忠男(栃・皆川中)

副部長 皆川 晃(南・下江川中)

〃 秋野 勉(佐・城東中)

2 平成8年度会報発行の構想

ア 会報は年2回発行する(85・86号)

- ・内容はほぼ従来どおりとする。
- ・「地区だより」については、「活動計画」「活動結果」を報告する地区が固定しないように年度ごとに入れ換える。
- ・後期号(86号)に専門部の活動結果の報告を掲載する。

イ 発行予定日

第85号 平成8年9月1日

第86号 平成9年2月1日

ウ 各号の内容

- ・[第85号]役員所感、各専門部の活動計画、退任にあたって(前会長)、関東甲信越(山梨)大会報告、新任校長の一言、地区だより、私の朝会訓話、お知らせ(関プロ大会等)
- ・[第86号]役員所感、各専門部の活動報告、全日中大会報告、研究学校報告、地区だより、海外教育事情報告等

3 次回編集部会

ア 平成8年11月下旬の予定

イ 議題 会報第86号の内容、執筆者人選等

4 その他

会報85号、86号とも12ページにする方向で検討中。

☒ 職員対策部

部長 関谷 孝(南那・烏山中)

平成8年6月3日(月)、県教育会館において専門部会を開き、本年度の組織及び事業計画について協議し、事業として福利厚生部との共催で、「退職後の生活設計について」を主題に研修会を次のように開催することを決定しました。

1 役員

部長 関谷 孝(南那・烏山中)

副部長 津久井 陸 雄(河・古里中)

〃 和田 健一(那・金田北中)

2 事業計画

講話「退職後の生活設計について」

期日 平成8年11月25日(月)13:30～

場所 栃木県教育会館

講師 栃木県教委福利課長、各係長他

3 研修内容

—退職と退職後の課題—

(1) 医療保険について

- ・退職後の医療
- ・任意継続組合員制度
- ・継続療養制度等

(2) 退職手当について

- ・退職手当の種類
- ・退職手当の算出
- ・各種課税等

(3) 年金制度の概要について

- ・年金の種類
- ・退職共済年金の内容と仕組み
- ・退職共済年金の支給等

(4) 退職者部会等について

- ・退職者部会について
- ・退職者部会の加入のしかた等

☒ 進路対策部

部長 川原宗司(宇・姿川中)

平成8年6月3日(月)県教育会館において、専門部会を開き、本年度の組織及び事業計画について協議し、次のように決定した。

1 役員 部長 川原宗司(宇・姿川中)

副部長 富川 黎司(塩・大宮中)

〃 大澤 幸雄(足・坂西中)

2 本年度の事業計画

「中学校における進路指導をどのように進めていくか」を中心課題とし、各地区のアンケート結果を基に活動を推進することにした。

主な内容として、①高校入試制度改善に関してどのような要望をしていくか ②高校教育制度改善に関してどのような要望をしていくかを話し合い活動することにした。

(1) 第1回研修会

ア 期日 平成8年7月1日(月)

イ 場所 栃木県学生協会館 会議室

ウ 内容 アンケート結果を各地区より持ち寄り、次に掲げる内容について検討しまとめる。

- ・中学校における適正な進路指導の在り方について
- ・新しいタイプの学校・学科について
- ・普通科、専門学科、総合学科の在り方について
- ・県立高校入試の改善について
- ・私立高校入試の改善について
- ・その他

(2) 第2回研修会

(私立中学・高校連合会との協議)

ア 期日 平成8年9月17日(月)(予定)

イ 場所 栃木県教育会館 会議室

ウ 内容 高校入試制度の改善について

(3) 第3回研修会(県教委との協議)

ア 期日 平成8年11月22日(金)(予定)

イ 場所 栃木県教育会館 会議室

ウ 内容 県立高校の入試及び教育制度の改善・その他について

☒ 修学旅行部

部長 大塚 弘 (宇・若松原中)
平成8年6月3日(月)教育会館において専門部研修会を開き、本年度の組織及び事業計画を次のとおり決定しました。

1 組織

- 部長 大塚 弘 (宇・若松原中)
- 副部長 佐藤 安夫 (上・栗野中)
- “ 保々 政司 (足・西中)
- 次長 古泉 臣一 (宇・宮の原中)
- 監事 大木 勝利 (芳・中村中)
- ※関東地区公立中学校修学旅行委員会(関修委)
- 副会長 千本 文雄 (宇・泉が丘中)
- 監事 大塚 弘 (宇・若松原中)
- 運営委員 古泉 臣一 (宇・宮の原中)
- “ 佐藤 安夫 (上・栗野中)
- “ 大木 勝利 (芳・中村中)
- “ 小林 勇 (小・桑中)
- “ 佐山 臣男 (栃・寺尾中)
- “ 保々 政司 (足・西中)

2 事業計画

本部会は、安全且つ円滑な輸送と学習効果の向上等修学旅行本来の使命達成に寄与することを目的とした部会であり、主な事業は

- (1) 新幹線(専用列車)利用希望調査
- (2) 修学旅行実施調査研究、動向調査
- (3) 輸送計画の作成(他県との調整)
- (4) 研究会等の開催と参加等

各中学校が安全且つ快適な修学旅行を実施するために各地旅館組合やJR等関係機関との折衝、全生徒参加を目指し修学旅行費等の国庫補助金増額を文部省、厚生省に陳情するなど本部会独自では成し得ない。そこで関東5県の校長会で組織する「関修委」に加盟し、全国修学旅行研究協会と一体となって活動している。

このことをご理解いただき、関修委に未加盟の学校(地区)の加盟を強く希望いたします。

☒ 福利厚生部

部長 古田土 渡 (宇・陽西中)
平成8年6月3日(月)の部会において、本年度の正・副部長並びに事業計画を次のとおり決定した。

1 正・副部長

- 部長 古田土 渡 (宇・陽西中)
- 副部長 君島 勇 (河・南河内中)
- “ 直井 志郎 (上・日光東中)

2 事業計画

- (1) 第1回部会研修会 平8.6.3(月)教育会館
 - ア. 役員選出
 - イ. 事業計画作成とその推進
- (2) 第2回部会研修会 平8.9.7(土)丸治ホテル
 - 「生徒手帳」編集会議
- (3) 第3回部会研修会 平8.11.25(月)教育会館
 - 講話 「退職後の生活設計」
 - 講師 県教委 福利課職員
 - ※ 職員対策部と共催事業
- (4) 第4回部会研修会 平9.2.15(土)丸治ホテル
 - 「中学生の安全」「新しい道」編集会議
 - 本年度の事業反省と次年度計画について

第48回関東甲信越地区
中学校長会研究協議会
山梨大会に参加して

事務局長 川原 宗司 (宇・姿川中)

第48回を迎えた関プロ山梨大会が、6月20日・21日の2日間「富士を仰ぎ、山紫水明」の甲府市に、一都九県から1,144名の中学校長が参加して、開催された。

昨年に引き続いて「学ぶ意欲と主体的に生きる力を育てる中学校教育」を研究協議会として掲げこれからの中学校教育の方向や在り方について熱心に研究発表や研究協議が行われた。

第1日、開会式では、望月忠男大会委員長から「社会の急激な変革の中で、学校教育が抱えている諸問題を真剣に受けとめ各学校で校長としてどう取り組むべきか、何をなすべきかの視点で研究討議がなされ、その成果が各都県の中学校教育の改善に反映されることを願っている」とのあいさつがあった。続いて、文部省、県知事、県議会議長、県教育長、甲府市長、全日中佐藤金吾会長等多数の来賓の方々から激励と祝辞をいただいた。

文部省中学校課高木義紀先生からは「中学校教育における諸問題」と題して、「第15期中教審のまとめ」を基に、学校が当面している諸問題についての具体的な説明があった。

全体協議では、「自らの課題を追求する生徒の育成と時代の要請にこたえる中学校教育の推進～一人ひとりが生きる指導を通して～」と題して地元高根中学校長古屋富蔵先生から、実践を踏まえた研究提案がなされた。

アトラクションとして、「無形文化財甲府ばやし」が披露され、「ひょっとこ踊りや獅子舞」が参観者の心をなごませてくれた。

第2日の全体会は、会報告の報告、大会宣言文の決議がなされた。最後に記念講演として「わたしの山 わたしの写真」と題して、地元写真家の白旗史朗氏の講演が行われ、感銘を受けながら、山梨大会が盛会のうちに多大の成果を残し無事終了した。

☒ 生徒指導部

部長 真船 淑和 (宇・瑞穂野中)

1 事業計画の概要

- (1) 第1回部会研修会 平成8年6月3日
県教育会館
- (2) 第2回部会研修会 平成8年11月27日
県教育会館 2F 小会議室/10:00～12:00

2 第1回部会研修会の内容

(1) 役員選出

- 部長 真船 淑和 (宇・瑞穂野中)
- 副部長 太田 武久 (足・愛宕台中)
- “ 宮本 祝 (南那・荒川中)

(2) 平成8年度生徒指導部研究課題

『いじめへの対応』
～主として地域とのかかわり等について～

(3) 研究の方向

各学校でのいじめへの対応については、県教委版「児童生徒指導資料(14)」等を参考に、研究実践されているが、本生徒指導部において、本年度はとくに地域とのかかわりを、下記のア～オについて各校または地域での研究実践例を出し合い、情報交換し、より良い連携の仕方を探っていきたい。

ア いじめ問題については学校とそこをとりまく地域との連携が必要と言われているが、各学校では具体的にどのように取り組みをしているか。

イ いじめの根絶にむけて地域ぐるみで協議するためのPTAや地域の関係団体との間にどのような組織があるか。また、考えられるか。

ウ 一般の地域住民に学校での取り組みや情報をどのような方法で流し、協力をおおいでいるか。

エ 地域からの情報の受け取り口として、どのような工夫を各学校ではしているか。

オ 地域との連携をはかるとき、生徒の「人権」を尊重していくうえで、どのような配慮が必要とされるか。

新任校長の一言

職員の日

宇都宮市立横川中学校長
岩田裕司

4月1日、「校長先生、おめでとうございます。」というあいさつで迎えられた。新任校長として校舎内に入ると、活気に満ちた職員の姿が目にとまった。

しばらくして、職員会議が始まった。私は同じ学校での校長昇格なので、会議の雰囲気は承知している。しかし、今日の職員会議は立場の違いからか、緊迫した空気を感じた。私が立ち上がると職員の真剣な目が注がれた。学級担任・校務分掌の発表、続いて学校経営の所信表明を行った。職員室内は私の話が終了するまで、メモを執る音以外は何も聞こえない静けさだった。私はこの雰囲気を感じ、慎重に一言一言話をすすめた。

一日のほんの短い時間ではあったが、緊張の中にも職員の意気込みが感じられ、学校の責任者として充実した一時だった。

今年度のスタートにあたっての職員の日、今も私の心に強く焼きついている。私は初心を忘れることなく、職員の真剣な目・期待の目……を心に留めて、学校経営にあたっていきたい。

今、必要なことは生貧を
考えること

藤岡町立藤岡第二中学校長
松岡正純

生貧と死貧という言葉があります。生貧とは文字どおり「生きて貧しい」ということです。

精神的に貧しい人、物質的に貧しい人、人間関係に貧しい人等々私たち人間には様々な貧しさがたくさんあります。

聖徳太子は生貧に苦しむ人々を救済するために四天王寺に福祉施設をつくりました。その一つが悲田院で今日の養老院と育児施設の機能をあわせ持った施設です。また精神的に弱い人を教化していく教化院といった施設もありました。いづれ

も「生貧」に対する仏教の救済方法なのです。

今教育界は大きな改革の期にあります。同時に国民一人一人が、大きな眼を開き教育改革に深い関心を寄せています。

様々な問題を抱えている今日の教育を我々教師自身が、どう受けとめ児童生徒一人一人を育成するかが問題です。美麗美句的、お題目的な文章だけが走り廻っているようだ児童生徒は育たない。

今大切なことは、生貧から脱却し、心豊かな人間として、教師として努力しなければならないと痛感しているこの頃です。

新任校長の一人言

茂木町立逆川中学校長
上野忠之

4月に赴任以来、毎日清らかな澄んだよい音で鳴く鶯に励まされながら4ヶ月になろうとしている。この間、数多くの課題とそれを解決する難しさを十分認識させられると共に先輩たちの素晴らしさに敬服した。先輩に学びながら校務に励み、己の未熟さに鞭打つためにも「有子の言葉」で「本を務む。本立ちて道生ず。(末梢のことや形にとらわれず、根本を把握することに努めよ、根本を行っていけば、自然に方法は立つ)」を心に強く刻んだ。

それにしても、現場のゆとりの無さが気にかかる。早朝から夜まで、スキの無い毎日が続いている。これで「良い仕事」ができるのか？研修は？生徒への対応は適切か？どうしたら今の職員たちが心にゆとりがもてるか考えている。職員それぞれが「芸に遊ぶ。(孔子)」ができればと願っている。

初心を忘れず全力投球で

佐野市赤見中学校長
落合一義

この4月、校長として勤務が命じられた。中学校長として、その責任の重さをひしひしと感じている現在である。校長としての緊張(ストレス)は「初心」として、今後も大切に忘れられないようにしていきたい。

地区だより

実質的な研修及び研究を
目指して

河内地区

平成8年度の河内地区中学校長会は、2人の新任校長を迎え、4月4日に第1回河内地区中学校長会を開催し、新年度の研修計画並びに各種研究団体等の役割分担などについての協議を行った。研修計画及び研究主題の概要は、以下のとおりである。

【研修計画】

4/4…研修計画作成、組織づくり並びに全日中及び関ブロ大会関係参加者等の確認 4/12…宇都宮地区との合同研修(研修計画等の調整並びに情報交換) 6/14…教育施設の視察 7/11…宇河中・高校長連絡協議会① 10/22…研修会(田原中)、12/5…文化財の視察 12/9…宇河中・高校長連絡協議会② 2/6…宇都宮地区との合同研修(反省及び次年度の研修計画等の立案) なお、河内地区においては、地区内の9中学校の学校教育の共通性と独自性との両面を尊重するとともに、各学区内の小学校との連携も重視するというを基本として、河北・河南地区別の研修並びに地区内の小学校長会との合同研修も従来通りに実施することになっている。

【研究主題】

「多様な教育活動を支える施設・設備の充実」を研究主題として取り上げ、宇都宮地区と合同で、時代や社会の要請に応える教育活動の実践並びに円滑な学校経営等を目指して、特に、学校教育における危機管理の在り方について、多面的・多角的に情報交換・収集を行いながら研究主題に迫る研究を推進していくことになっている。

今年度の研修

芳賀地区

芳賀郡中学校長会は、今年度新しく7名の会員を迎えて4月5日にスタートした。会長には芳賀町立芳賀中学校の関澤昇校長が選任された。本年

同時に、4年振りの中学校勤務には、正直なところ心踊るものも感じた。田沼東中に4年、葛生常盤中に7年、佐野城東中に10年、佐野北中に6年、計27年間中学校に勤務した。それぞれの勤務経験は、私の体に染み込んでおり、教師として、生き甲斐になっているからかも知れない。

現在、多くの問題を抱えているのが中学校教育である。青年前期にあたる中学生時代は、心理学的に「疾風怒濤」の時代といわれ、精神的に揺れ動く最も不安定な時期である。それ故に自分の「生き方」への不安や課題の重圧から、多くストレスを抱え非社会的に、反社会的行動に走っているのが現状である。現代の価値観の「多様化」「不透明さ」の時代の迷える子羊たちなのである。

我が学校が、この迷える子羊たちを一人でも多く支え救える教師集団として、一層存在価値が発揮できるよう学校運営に全力投球していきたい。

校長一年生

大田原市立親園中学校長
新垣稔

校長に就任して、各種の会議や研修会への参加学校行事との関わりなど、校長とはこんなに大変かと実感している間に、早いもので一学期も終わろうとしています。学校の管理者として、生徒や部下職員に対して何ができたか改めて反省しているところです。

昔から地域住民が教育村だと自負している地域の学校へ赴任して、その伝統を生かし、校長としての教育観を出しながら学校運営に取り組んでいるところです。社会の変化につれ、生徒や保護者の価値観も多様化し、その対応の難しさや生徒指導、学習指導、健康・安全指導、地域との連携など山積する課題解決には、校長としてのリーダーシップが問われることばかりです。先輩の校長先生の教えや関係機関から指導されたことを学校運営に生かしています。

学校運営にあたって、誠心誠意自己の任を尽くし、生徒や職員にとって楽しい学校でありたいと念じています。一人ひとりの生徒や職員の下さを見つけ、生かしていくことを心がけています。

度も7回の研修会を計画している。研修会の目的は「中学校経営上の課題を究明し、もって校長としての資質の高揚を図る」である。この目的達成のため、各研修会ごとにテーマと提案者を決めた。研修会は和やかな雰囲気の中で進められ時間をオーバすることもしばしばである。今年度の研修テーマに基づく研修会は第2、3、4、5の各研修会である。次のそのテーマと提案者を示す。

- 第2回 「校内研修の在り方…新しい学力観に立つ教育の取り組み」 田野中 河又校長
 - 第3回 「生徒指導…いじめ及び登校拒否の生徒への対応」 真岡中 卯柳校長
 - 第4回 「職員指導…特に主任職教師への指導」 芳賀中 関沢校長
 - 第5回 「学校教育見直しの視点…ゆとりと充実」 (スリム化をどう図るかの視点から) 久下田中 渋井校長
- なお、第6回研修会は地域探訪である。

研修計画の概要

塩谷地区

平成8年度の塩谷地区の校長会は、3名の転採校長、2名の新任校長を迎えたことにより、会員のちょうど半数が入れ替わりました。第1回の校長会を4月5日に開き、研修計画、組織編成が提案・承認され、豊田實会長を中心に本年度の新しいスタートを切りました。研修テーマ及び研修計画は次のとおりです。

- 研修テーマ
「心豊かでたくましく生きる力を育てる生徒指導」
- 研修計画
- 1 4月6日 研修計画、組織編成
 - 2 5月23日 研修テーマに基づく研修
 - 3 7月25日 研修テーマに基づく研修
 - 4 9月5日 学校経営上に諸問題懇談会
 - 5 11月19日 研修テーマに基づく研修
～20日 教育課程実施上の諸問題
 - 6 1月21日 適切な進路指導
 - 7 2月27日 本年度の反省

このほかに、小中学校合同による研修会を年4回計画し、研修を進めています。

少数精鋭の研修

南那須地区

南那須地区は、南那須町・烏山町・馬頭町・小川町の中学校長8名で組織し、少数精鋭主義で研修をしている。

特に、県の校長会専門部にも、一人一専門部を担当し、有意義な研修をしている。

今年度は、新しく3名の校長を迎えることができ、会長に烏山中学校の関谷孝校長が選任され、少人数ではありますが、活気あふれる研修が行われています。

本地区の研修は、小中学校長会合同の研修会と中学校長会、中高連絡会議、さらに、各町ごとに小中学校長会など種々の研修会がある。

そのうちの中学校長会は、年3回で研修計画に基づいて研修をしている。本年度の研修テーマは「教職員の資質向上を図るための研修のあり方」とし、今までの研修の積み重ねとして、さらに、問題点を洗い出し、研修の方向を決めて研修に取り組んでおります。

研修は、常に、各自が具体的な研究・実践資料を持ち寄り、建前論ではなく本音で話し合い、実のある研修になるよう努めている。

学校経営の充実を目指して

安佐地区

安佐小中学校長会は、小学校29校、中学校10校計39校で構成され、本年度は6回の研修会を計画している。中学校部会では、研修主題「学ぶ意欲と主体性に生きる力を育てる中学校教育」・副主題「生徒一人一人を生かした教育活動の推進」を掲げ、次の5つの重点課題について研究を推進することにした。

- (1) 創意ある教育課程の編成と実践
- (2) 心豊かでたくましく生きる力を育てる生徒指導
- (3) 自己実現を目指す進路指導
- (4) 生涯学習社会における学校と地域
- (5) 教職員の資質の向上と教員養成

研修の方法としては、「各学校の実践活動を基

に、具体策を明らかにするとともに、その反省点や問題点を究明することを通して研修を深める。」「学校経営上の諸問題を具体例に基づいて協議する。」等を基本にして、本音で話し合える研修を推進している。

6月に行われた、関東甲信越地区中学校長会・研究協議会山梨大会で、栃木県代表として常盤中学校西沢松男校長が、第5分科会で提案を行った。

今年度の研修予定から

足利地区

足利地区中学校長会議(会員11名)は、4月4日4名の新会員を迎えて開催され、会長に第一中学校岡崎龍太郎校長を選任し、続いて今年度の研修計画を話し合い決定した。

主なものをあげると、研修テーマを「学ぶ意欲と主体的に生きる力を育てる中学校教育」(県テーマと同じ)とした。研修計画として、中学校長研修会6回、小中高校長合同研修会1回、安足管内中学校長研修会1回を予定し、この他に県、関ブロ、全日中研究大会への参加がある。

研修にあったては、テーマにそった研修と学校経営上の諸問題並びに緊急課題について協議を行うこととした。

今年度は、安足管内中学校長研修会を史蹟足利学校で実施したり、9月の県中学校長研究大会に地区代表で、協和中学校の石井英行校長が発表を予定するなど、温かい雰囲気をもった岡崎会長を中心に進められつつある研修会に、会員一同の期待は大なるものがある。

私の朝会訓話

自分の顔をつくる

南那須町立下江川中学校長 皆川 晃

諸君の顔を見ていると、はつらつとした若者の意気を感じます。一人ひとりの顔にそれぞれの特性があって、将来への夢に向かって生きていく力強さを感じ、頼もしく思います。その頼もしさは、身長や体格からくるものではなく、諸君の精神の中からほとばしり出てくるものなのです。

私は、昨日果物を買いに掛りました。店先には品物が、豊富に陳列されていました。買い物客も大勢いました。私は桃を買いました。形が良く、色が鮮明で、傷のない品を選び、買い物籠に入れました。味をみることであれば最良なのですが、それは不可能なことです。買い物客は、求める果物の形や色つや・鮮度や重量を比べてその果物の善し悪しを判断していました。表出している条件によって中味を判定しているわけです。その果物が熟するまでの諸々の条件が、果物の善し悪しを決定しているのです。

ところで、二人の俳優がいました。Aさんは10歳台で主役を与えられ、華々しく活躍していました。周囲の者もAさんをもてはやし、本人も

有頂天だったようです。Bさんは下積みで役もなく、悩み苦しみ、俳優をやめようと考えました。けれども家を出て俳優になることを決意したBさんにとって、それも適いません。下積み生活も天命と考え、それに徹し、暇を見つけては舞踊・茶道・書・剣道等を学んだそうです。30代半ばになって初めて主役が与えられました。Bさんの演技は真に迫り、観客に深い感動を与えました。その頃Aさんは芸能界から姿を消していました。Aさんの有頂天は砂上のものに過ぎなかったのです。Bさんは奢ることなく演技に磨きをかけ、その顔は神々しくさえ感じられるようになり、評判は高まるばかりです。

顔は自分がつくるものです。30歳過ぎの顔は自分の責任であるとは、昔から言われている言葉です。30歳までに多くのことを学び、深く考え、毎日の生き方が諸君一人ひとりの顔をつくり出すのです。20年後の諸君の顔を期待して話を終わります。

お知らせ

関東甲信越地方放送視聴覚教育研究大会 栃木大会のご案内

関プロ放送・視聴覚教育研究大会
栃木大会実行委員長

仁 平 順(真・山前中)

表記の研究大会が、真岡市において開催されます。本研究大会は、幼稚園・小学校・中学校・高等学校の4校種が一体となって研究推進するものであります。

今学校では、「新しい学力観」に立った指導法の工夫改善及び情報化社会を生きる生徒の資質能力の育成が大きな問題であります。これらの課題解明のために、放送・視聴覚メディアの特性を生かし、効果的な活用を図ることが重要なことと思えます。このような観点から本大会を通して、放送・視聴覚教育のより一層の充実・発展に努めたいと思えますので、ご支援ご協力をよろしく願います。

1 大会主題

「新しい時代に対応できる主体的で心豊かな人間を育成するため放送・視聴覚教育を推進しよう」

2 期 日 平成8年11月1日(金)

3 開催地 栃木県真岡市

4 主催 全放連・日本学視連・関放協・関視連・県学視協・県幼稚連・県小教研視聴覚部会・県中教研視聴覚部会・高教研視聴覚部会

5 共 催 栃木県教委・芳賀1市5町教委ほか

6 後 援 文部省・厚生省・県中学校校長会・県中学校教育研究会・NHKほか

7 日 程

◇公開保育・授業

《幼稚園》萌丘東幼稚園

《小学校》真岡東小学校 真岡西小学校
真岡市科学教育センター

《中学校》真岡東中学校

・学級活動1年(国際理解教育)

・学級活動2年(環境教育)

・社 会2年(東北地方の米づくり)
真岡市科学教育センター

・理科真岡中2年(電流のはたらき)

・理科山前中3年(火山)

《高校》真岡女子高校

◇部門別課題研究会

《中学校研究課題》

「意欲的に学び、豊かな発想のできる生徒を育てる放送・視聴覚教育を進めよう。」

・放送利用

提案者 坂本 勉(七合中教諭)

助言者 秋葉隆市(馬頭東中校長)

・映像機器の活用

提案者 赤坂治之(足利北中教諭)

助言者 鶴淵康宏(足教指導主事)

・パソコンの活用

提案者 隅内健二(上三川中教諭)

助言者 長岡孝之(河内指導主事)

◇全体研究会(真岡市民会館)

・記念講演『のど自慢旅日記』

講師 元NHKアナウンサー金子辰雄氏
(詳細は二次案内をご覧ください。)

※ 参加協力依頼

各中学校1名以上の参加を、特に願います。